

高木復興大臣ぶら下がり記者会見録  
(平成27年10月8日(木) 9:45~9:52 於) 福島県庁)

1. 発言要旨

改めまして、昨日復興大臣に就任させていただきました高木毅と申します。どうぞよろしくお願いを申し上げます。

昨日の官邸、あるいは復興庁の会見で申し上げましたけれども、総理から「全大臣が復興大臣になったつもりで」という言葉がございました。復興庁はまさにその司令塔の役割を果たさなければならないという思いでございます。その中心となって福島、宮城、岩手を中心とした被災地の復興に向けて頑張りたいと思いますので、福島の皆様方の御協力をよろしくお願いしたいと思います。

昨日、就任をさせていただきましたして早速私にとっても初仕事と申し上げていいかと思えますけれども、福島県を訪問させていただきましたして、先ほど知事と面談をさせていただきました。あわせて就任の挨拶をさせていただいたところでございます。

私のほうからは今申し上げたとおり、政府の司令塔となって復興に向けて頑張るといふこと、それから何よりも被災地の皆様方に寄り添う、すなわち頻繁に来る、そして私が意見を申し上げるといふよりも地元の皆様、とりわけ知事、あるいは各市、町の首長さん、議員の皆様、もちろん一般の方々もそうでありましてけれども、そうした方々の声を多く聞くということが私の仕事だと思っております。そして、それを反映させる形で仕事をしていくということだと思えます。

そうしたことの趣旨を申し上げたわけでございますけれども、知事からはまだ県全体の復興の進捗は十分ではないということ。あるいは避難指示解除を進めて、元の生活を取り戻すこと、そしてまた中長期的な財源の安定的な確保をお願いしたいということ。そして、今、申し上げましたけれども、現場主義を貫き、何度でも福島に来ていただきたい、そして多くの声を聞いていただきたい。今、申し上げた4点について、主にお話をさせていただきましたので、その知事のお言葉に対して頑張っていきたいと思っております。

以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 改めてなんですけれども、直接知事からお話を伺って、大臣、受止めはどういうことでしょうか。

(答) 知事御就任ちょうど1年、そしてまた副知事の時代もあったわけでありまして。本当に、御苦労なさっているという感じを受けました。その知事を初めとする被災地の皆様方の御苦労というものを共有しながら、まさに被災地の皆様方と同じ気持ち、心となって、頑張っていかなければならないという

ことを改めてここに来て、知事にお会いして、そういう思いを持たせていただきました。

(問) 大臣は、昨日就任されたばかりでありますけれども、福島復興について知事とお話を受けて、まず大臣として福島復興で何を注力したいとお考えでしょうか。

(答) もちろん福島は宮城、岩手と違って、原子力災害ということがございました。今の知事のお話にもございましたけれども、避難されている方がしっかりと帰ってこられること。それから、生業というのでしょうか、しっかりとそこで生活ができるようなイノベーション・コースト構想というものもあると聞いております。そうしたこともしっかりと進めていかなければならないと思いました。

(問) 先ほど、知事からありました中長期的な財源的な安定的な確保という話がありました。今後5年間の枠が固まったばかりでありますけれども、大臣として何をとっかかりにして、その先の財源確保を進めていこうとお考えなのかお聞かせください。

(答) 私も就任したばかりでございますので、これからではありますけれども、先ほど申し上げたように、帰ってくるということも大事ですけれども、きちんとした形で生活、生業(なりわい)ができるということを確認していかなければならないと思います。

あるいはまた生活する上で、いろいろ必要なものがあるわけでありまして、例えば医療などもそうでありましょうし。そうしたことがきちんと充実できるような形での予算の確保というものを安定的な財源の確保をしていくべきということを感じております。

(問) 知事からも現場を度々訪れるという要望があったと思うのですが、原発避難区域を初め現地への視察は今後どのような。

(答) まだ、予定は立てておりませんが、なるべく早いうちに、もちろん昨日も申し上げましたけれども、発災直後には福島の1Fのサイトの中にも入らせていただいております。改めて復興大臣という立場で行きたいと思っております。まだ計画は立てておりませんが、なるべく早いうちにお伺いをしたいなと思っております。

(問) 原子力災害を取り巻く問題はたくさんあると思うんですけれども、中間貯蔵であったり、除染であったり、いろいろあると思うんですが、一番重点的に最初に取り組みたい課題はどういった課題でしょうか。

(答) どれが先ということではないと思っておりますけれども、やはり今申し上げた除染、これは最も急ぐべきものだと思います。先ほど知事の言葉にもありましたけれども、早く避難なさっている方が帰ってこられるように、そして元の生活ができるようにということでございますので、そうした上においてはやはり除染というものをまず先にやるべき課題なのかなと思っております。

(問) 大臣、地元が福井ということで、原発集中立地地域ですけれども、福島全基廃炉ということで、その辺、原子力政策についてはどうお考えでしょう

か。

(答) 廃炉、あるいは再稼働、考え方はあると思います。この福島２Fについては、ほかのサイトとは同列に考えることはなかなか厳しいと思っています。もちろん、政府としては安全基準をクリアしたものは再稼働することになっております。私もそういう考え方ではありますが、先ほど申し上げたとおり、福島２Fについてはなかなか同列というわけにはならないのではないかと。大事なことは、やはり事業者の考え方、あるいはまた地元の皆さん方の考え方、こういったものを尊重していくことは大事なことだと思っております。

(以 上)